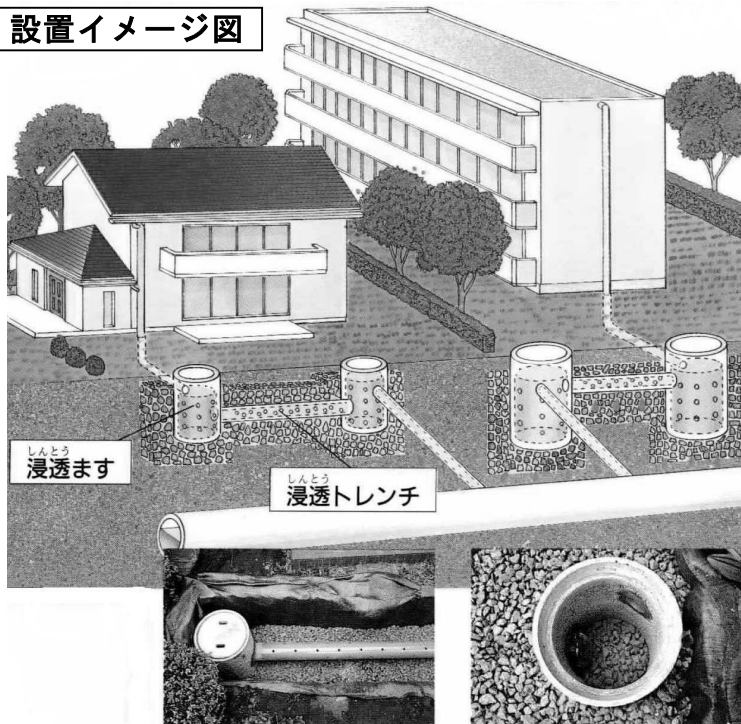


雨水浸透施設・雨水タンクを設置しませんか

雨水流出抑制施設等設置助成制度について

近年、1 時間あたり 50 ミリを越える局所的な豪雨が増加しており、目黒区では区内全域を対象に水害から区民の生命身体を守り、水害による財産被害を軽減することなどを目的として「目黒区豪雨対策計画（令和3年3月）」を改定しました。流域での治水対策を促進するため、個人住宅に対して「雨水浸透ます」「雨水浸透トレンチ」などの雨水流出抑制施設及び「雨水タンク」を設置する場合、整備にかかる費用の一部助成を行っています。（詳細は裏面をご覧ください。）

設置イメージ図



雨水浸透ます

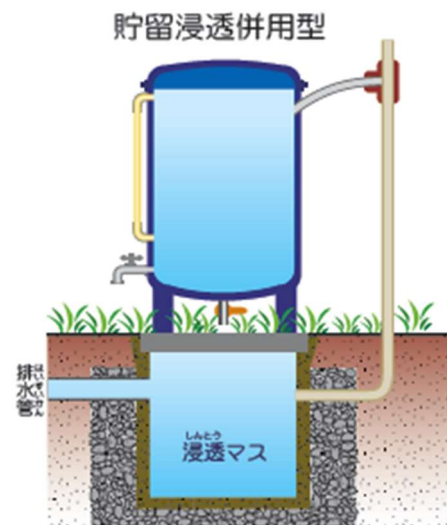
宅地内に降った雨を、底面及び側面を碎石で充填したますを通して地中に浸透させる施設をいいます。

雨水浸透トレンチ

掘削した溝に碎石を充填し、浸透管を埋設したものに、雨水を導くことにより、地中に浸透させる施設をいいます。

雨水タンク

屋根に降った雨を一時貯留するタンクをいいます。



出典：「戸建住宅における雨水貯留浸透施設設置マニュアル（平成18年3月）社団法人 雨水貯留浸透技術協会」

詳細につきましては、目黒区都市整備部都市整備課開発係(03-5722-9715)までお問い合わせ下さい。

1 助成制度の概要

(1) 助成対象事業・内容

- ① 雨水流出抑制施設(浸透ます・浸透トレンチ)新設工事
- ② 既存住宅付帯工事
- ③ 公共雨水浸透ますに宅地内の雨水管を接続する工事
※公共雨水浸透ますは東京都下水道局が道路内に設置するため、別途下水道局との協議が必要です。
- ④ 雨水タンク設置工事(原則、①との併設、容量200リットル以上)

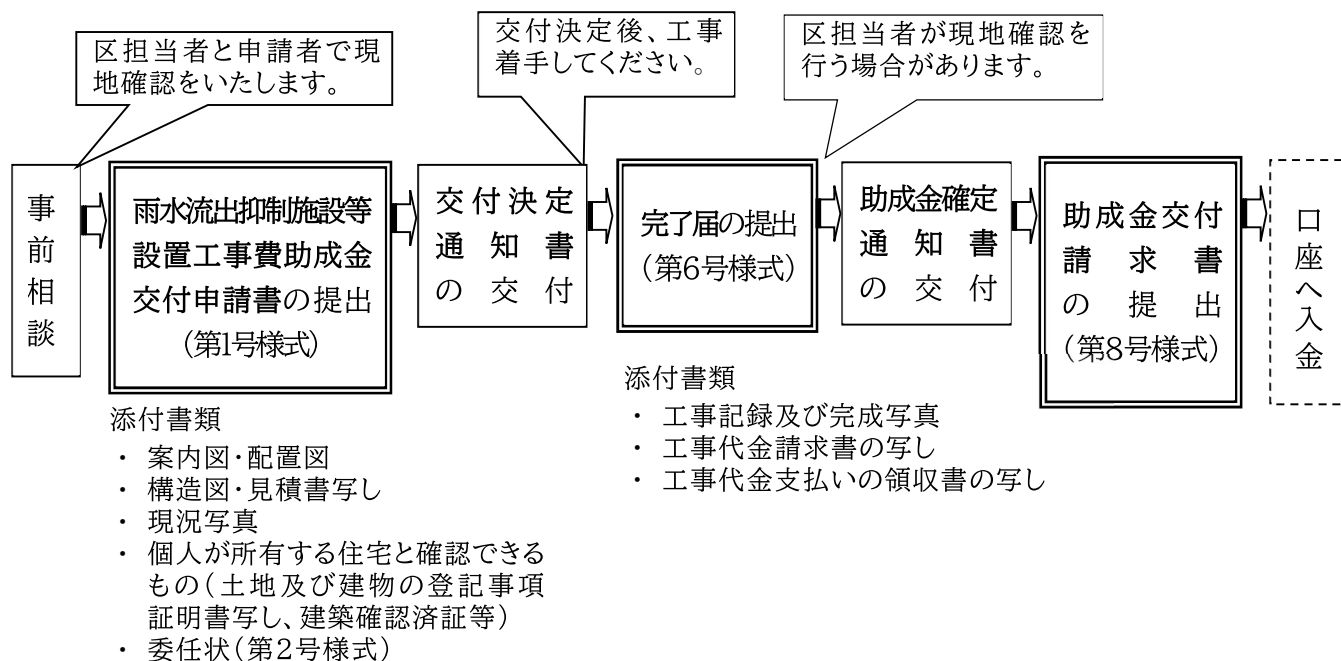
(2) 助成の要件

- ・ 目黒区内の個人が所有する住宅等(敷地面積が500㎡以上の新築住宅を除く)に設置するもの。
- ・ 新築の場合は、各宅地における雨水流出抑制能力が1時間当たり10mm以上あること。
- ・ 既存住宅の場合は、設置可能な範囲内で雨水抑制施設を整備する工事を行うもの。
- ・ 設置施設の構造が「東京都雨水貯留・浸透施設技術指針」(資料編 P42 又は別紙1参照)に定めたもの、又は当該施設と同等以上の単位貯留浸透量を有するものであること。

(3) 助成対象者

住宅等の所有者で個人に限ります。(個人所有の共同住宅も対象となります。)

2 申請手続きの流れ



★設置をご検討の方は、事前にご相談ください。

事前相談段階で区の担当者が現地確認を行います(設置場所の条件などにより技術的に設置が困難な場合もあります)。また、予算の範囲内での助成になりますので、事前にお問い合わせください。

助成金額の計算方法と設置例

<100 ㎡の宅地における助成金額の計算例>

	新築工事の場合	既存住宅の場合
手順 1	各宅地において必要となる、1 時間あたり 10 mmの雨水流出抑制能力 (m³/hr) を計算する。 敷地面積 100 ㎡×0.01m = 1 m³/hr	雨水流出抑制能力の計算は必要なし
手順 2	設置を検討している PⅡ型浸透ますの浸透量の計算を行う。 例 単位貯留・浸透量 0.332×2 個 = 0.664 m³/hr	浸透ます及び浸透トレンチを宅地内に設置することが可能か検討する。 ※以下のいずれかにチェックが入った場合、浸透ます及び浸透トレンチ設置は不要。 ☐ 地下水位が地盤面から下方 1m未満 ☐ 設置場所が建物等の基礎から 30cm以上または想定する掘削深さ相当の水平距離が確保できない
手順 3	設置を検討している TⅠ型浸透トレンチの浸透量の計算を行う。 例 設計浸透能力 0.247×3m = 0.741 m³/hr ※雨水浸透ますにつなげた場合、雨水浸透ますの碎石部分はトレンチの長さから除く。	☐ 設置場所が地下埋設物から 30cm以上の水平距離が確保できない ☐ 設置場所が法面及び擁壁の安全性が損なわれる近傍箇所しかない ☐ 舗装等の表層仕上がりがある ☐ 目黒区水害ハザードマップにおける水害の予想される区域に該当又は隣接する
手順 4	浸透ます及び浸透トレンチと併用して 200L 以上の雨水タンクを設置するか、検討を行う。 ※屋根面積が 200 ㎡以上の場合、屋根面積の平米数と同じリットル数の雨水タンクの設置が必要 容量 200L=0.2 m³/hr×1 個 = 0.2 m³/hr	200L 以上の雨水タンクを設置するか、検討を行う。 ※屋根面積が 200 ㎡以上の場合、屋根面積の平米数と同じリットル数の雨水タンクの設置が必要
手順 5	<検討結果> 浸透ます+浸透トレンチ+雨水タンク 0.664 + 0.741 + 0.2 = 1.605 m³/hr <結論> 1m³/hr≤1.605 m³/hr 必要量より対策量の方が大きいため、浸透ます、浸透トレンチ、雨水タンクが助成申請可能	<検討結果> ・浸透ます及び浸透トレンチ設置可 浸透ます及び浸透トレンチを設置した上で雨水タンク設置も助成申請可能 ・浸透ます及び浸透トレンチ設置不可 雨水タンク単独設置の助成申請可能

	新築工事の場合	既存住宅の場合
手順 6	助成額は、標準工事費単価で算出した額と実際の工事費を比較して、 <u>低い金額が対象となります。</u>	
	項目別計算 <PⅡ型浸透ます> ・標準工事費単価 34,000 円×2個＝68,000 円 ・当該工事に要した額 80,000 円 ↓ <u>低い金額である68,000 円を助成</u> <TⅠ型浸透トレンチ> ・標準工事費単価 27,000 円×3m＝71,000 円 ・当該工事に要した額 70,000 円 ↓ <u>低い金額である70,000 円を助成</u> <雨水タンク> ・雨水タンク設置限度額 56,000 円 ・当該工事に要した額 85,000 円 ↓ <u>低い金額である 56,000 円を助成</u>	項目別計算 <PⅡ型浸透ます> 新築工事と同等 ↓ <u>低い金額である68,000 円を助成</u> <TⅠ型浸透トレンチ> 新築工事と同等 ↓ <u>低い金額である70,000 円を助成</u> <雨水タンク> 新築工事と同等 ↓ <u>低い金額である 56,000 円を助成</u> <既存住宅付帯工事費> ・区への申請及び既存菅の接続など、必要に応じて既存住宅付帯工事費を一式計上する。 ↓ <u>272,000 円(円/件)</u>
手順7	助成金額の計算 <u>68,000 円＋70,000 円＋56,000 円＝194,000 円</u> <u>※区の予算の範囲内、かつ40万円が上限となります。</u>	助成金額の計算 <u>68,000 円＋70,000 円＋56,000 円＋272,000 円＝466,000 円</u> <u>→助成上限の400,000 円</u> <u>※区の予算の範囲内、かつ40万円が上限となります。</u>

別紙1 東京都雨水貯留・浸透施設技術指針(抜粋)

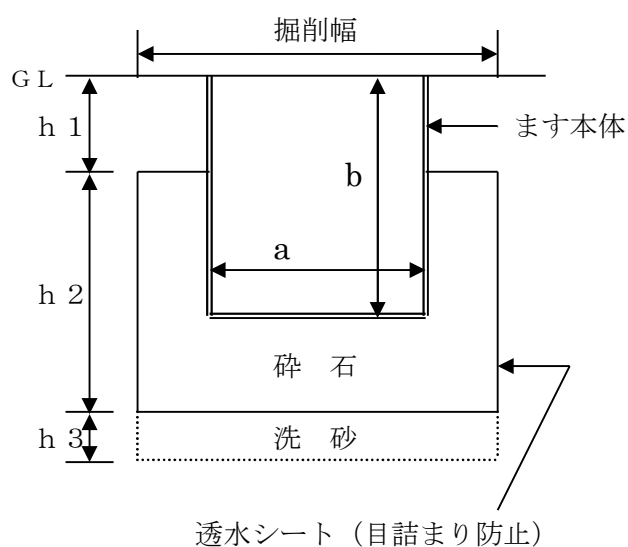
(1)浸透ます(寸法表 単位:mm・能力)

型番	ますの内径a	ますの高さb	h 1	h 2(砕石)	h 3	掘削深	掘削幅	単位貯留・浸透量m ³ /個/hr
P I	1 5 0	4 0 0	1 0 0	3 9 0	2 5	5 1 5	3 0 0	0.250
II	2 0 0	4 0 0	1 0 0	3 9 0	2 5	5 1 5	4 0 0	0.332
III	2 5 0	5 0 0	1 0 0	5 1 0	3 0	6 4 0	5 0 0	0.512
IV	3 0 0	5 0 0	1 0 0	5 1 0	3 0	6 4 0	6 0 0	0.618
V	3 5 0	6 0 0	1 0 0	6 3 0	3 5	7 6 5	7 0 0	0.863
VI	4 0 0	6 0 0	1 0 0	6 3 0	3 5	7 6 5	8 0 0	0.998
VII	5 0 0	8 0 0	1 0 0	8 8 0	5 0	1,030	1,000	1.710

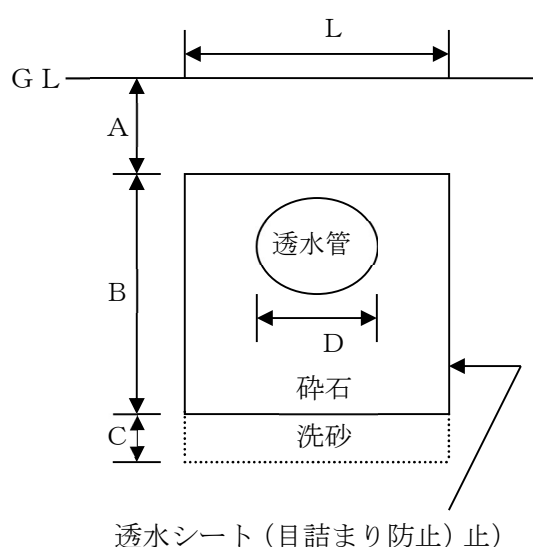
(2)浸透トレンチ(寸法表 単位:mm・能力)

型番	砕石高B	砂層高C	土被りA	掘削深	管径D	トレンチ幅 L	設計浸透能力m ³ /個/hr
T I	2 8 0	20	1 5 0	4 5 0	7 5	2 5 0	0.247
II	3 2 5	25	1 5 0	5 0 0	1 0 0	3 0 0	0.284
III	3 7 5	25	1 5 0	5 5 0	1 2 5	3 5 0	0.324
IV	4 2 0	30	1 5 0	6 0 0	1 5 0	4 0 0	0.365
V	5 6 0	40	2 0 0	8 0 0	2 0 0	5 5 0	0.499
VI	7 0 0	50	2 5 0	1,000	2 0 0	7 5 0	0.658

(1) 浸透ます



(2) 浸透トレンチ



※ 浸透施設の設置には、地下水位を考慮してください。(地下水位は概ね地盤面より-1m以上)

※ 浸透施設の設置場所は建物等への影響を考慮して、基礎から30cm以上あるいは浸透施設の掘削深に相当する距離を離して設置してください。

又、地下埋設物がある場合には地下埋設物から原則として30cm以上離して設置してください。なお、急な傾斜地及びがけ地は設置に不適です。

※ その他、施設設置についてはご相談ください。

標準工事費単価表

1 浸透ます(新設)

形式	単位貯留浸透量 ($\text{m}^3/\text{個}\cdot\text{hr}$)	ますの径 (mm)	深さ (mm)	標準工事費単価 (円/個)
P I	0.250	150	400	25,000
II	0.332	200	400	34,000
III	0.512	250	500	52,000
IV	0.618	300	500	63,000
V	0.863	350	600	88,000
VI	0.998	400	600	102,000
VII	1.710	500	800	175,000

2 浸透トレンチ(新設)

形式	単位貯留浸透量 ($\text{m}^3/\text{個}\cdot\text{hr}$)	断面形状 W×H(mm)	管径 (mm)	標準工事費単価 (円/m)
T I	0.247	250×300	75	27,000
II	0.284	300×350	100	31,000
III	0.324	350×400	125	35,000
IV	0.365	400×450	150	40,000
V	0.499	550×600	200	55,000
VI	0.658	750×750	200	72,000

3 雨水タンク購入費

形状等	標準工事費単価 (円/個)
雨水タンク購入費	56,000

4 既存住宅付帯工事費(※)

形状等	標準工事費単価 (円/件)
既存住宅付帯工事費一式	272,000

※ 既存住宅付帯工事費とは：

雨水流出抑制施設(浸透ます、浸透トレンチ)の標準工事費単価は、新築住宅用の単価であり、施設の設計や所管自治体への申請などの費用は、住宅新築時の必要な経費に含まれているため、助成の対象外となります。

一方で、既存住宅においては、雨水流出抑制施設単独工事であるので、それら費用を計上する必要があるとともに、既存管への接続費用や撤去処分費用についても計上する必要があります。

そのため、既存住宅の工事に当たっては、必要に応じて上記の「既存住宅付帯工事費一式」を計上することができます。